

第29回定例委員会議事録

17

1 日時 昭和31年6月7日(木)午後1.55~4.25

2. 出席者

正力委員長, 石川, 藤岡, 有沢, 各委員
佐々木局長, 法貴次長, 井上, 互理調査官,
藤波管理課長, 荒木調査課長, 鈴木アクトフ課長
堀助成課長, 小倉, 田中, 松友, 山崎

3. 議題

- (1) 長期基本計画について
- (2) アイソトープセンターについての中風報告
- (3) その他

4. 配布資料

- (1) 長期基本計画の問題点
- (2) アイソトープセンターの計画概要
- (3) 水原子力調査団質問事項(細目)
- (4) オ28回定例委員会議事録
- (5) その他

(5) 審議, 決定及び報告事項

(1) 雑件

下記事項につき報告, 説明が行われ了承された

- ① Fの調査団の日本における留学生選定方法に關する質問について
 - ② 安芸審議官のウイーン動力会議出席のための旅費補助について
 - ③ 湯川委員の出張旅費について
 - ④ ヒントン卿の資料の検討について
 - ⑤ 燃料公社の設立委員の使命について
 - ⑥ 天然ウランの買入問題について
 - ⑦ 原子炉の購入について
 - ⑧ コロンボプラン調査団に対する討論題目について
- (2) アイソトープセンターの中間報告について
- 佐々木局長より経過を報告、「アイソトープセンターの計画の概要(案)」について検討の結果大要は諒承され、本案を更に小委員会で検討を依頼することに諒承
- (3) イギリスの動力炉に関する問題について
- 正力委員長より先般の正力発表につき説明を行い、論議を重ねた結果、調査団を派遣するため検討することを諒承した。
- (4) 理運科学委員会の代表について

外
一

- 10月の第2回会議の代表の選定は原子力委中心に行うことを諒承
- (5) 長期基本計画の重点について
- 委員会で更に日数をかけ検討することになった、又本件は学術会議に諮問することに諒承された。又参事会に動力分科会をおかないことに決定された。

6 審議経過

(1) Fの調査団について

佐々木局長よりFの調査団より留学生の選定方法につき当方の意向を聞き度い旨申入があったと報告、月曜日に話合うことに諒承された。

(2) 安芸審議官のウイーン動力会議出席について

佐々木局長より旅費不足分3.5万円を原子力関係旅費から補てんしたい旨発言あり諒承された。

(3) 湯川委員の欧米出張旅費について

佐々木局長より不足分については期間を延長する以外方法ない旨報告あり、その線処理することを了承された。

(4) ヒントン卿の資料について

佐々木局長よりヒントン卿が大部の資料を残してい
つたが出につき研究を加える必要がある旨提案
(佐々木) これは科学技術全体の問題だ
(藤 岡) 長期研究計画を作ることが必要だ
(有 沢) 方針ができなければ……
(藤 岡) 調査課あたりで検討したら……
(佐々木) 局長を中心に審議官にも担当していただいて
検討する。

以上で局を中心に検討することに諒承された。

(5) 燃料公社設立委員について

佐々木局長より設立委員の名簿を作ったが早く手続
をとりたい旨発言、検討の結果 久道島秀三郎氏を
加えることを諒承された。

(6) 天然ウランの買入問題について

荒木調査課長より、米国より、これが遅れているのは
A.E.C.の手続が遅れているからで他意はない、又契約
当時者はA.E.C.となる旨電報で返事があつたと報告又
高濃縮のU-235 PU、U-233について原子力研究所の

information では米国ではすでに発表している旨報告、
次いでヒントン卿の勤労問題について米国大使館より湯川
博士が調査に行くかとの問合せがあつた旨報告あり、これ
について

(藤 岡) 委員会でも反対声明を出すか……

(有 沢) 国際的にも問題だ

(佐々木) あの問題は奥は嵯峨根博士が新聞に書いたので
大臣も困つて又、今晚から出張するので早く発表してしま
た。Fox調査団が帰ってから発表するとよかつたが……
発表自体は調査団を出すことだが……

(有 沢) 大臣がどんどん発表するなら その前に委員会
で決定してほしい。私達も迷惑だ。こちらでキチンと決めよう

(石 川) 委員長と委員丈でこの問題は話合う。

各委員石川委員の意見を諒承

(7) 原子炉購入について

荒木調査課長より資料(4)原子炉購入に関する件について説明
次の意見が述べられ諒承された。

(藤 岡) 結構だが6Kg以上になる点については尤方に当ってみる
必要がある京都のスィングポールでも6Kg以上になる。

(佐々木) それは協定を改正する必要がある。
(石川) 買入と一緒にやつたらよい。
(藤岡) 委員会として腹を決めて、外務省に打合せてらよい。
(荒木) 100g, 10g, 10gを一緒に入れられるような気がする
(有沢) 文部省で原子力計画の調査をしたら実験炉を置く希望が
可成あるどの程度まで枠を振げられるかも聞いてほしい
(藤岡) 関西ではみとめている。

(8) コロンボプラン調査団に対する討論題目について

荒木調査課長より資料(3)により説明し

(荒木) これはプライベートなもので具体的性質のものが多い。
これに関連してA項目の負担もあるし書物にして渡す必要
もないと思うがどうか。

(藤岡) 返事ができるものとすぐできないものがある
プライベートなものでもできるものは書いて渡した方がよい。

(石川) 皆の気のついたものはその通りと言う風上やつたらよい

(荒木) これは先方と詰合うとき議論する詳細な項目はマ
回答しない

(石川) しかし大体見当のつくことは答えたらよい。

(藤岡) 原案を局で作って検討したら……

(小倉) 別に文書で答を求めているのではないと外務省は云っていた。

(荒木) 先般の回答は一応この中の事項もカバーしている

(藤岡) 今こゝでやることは项目的に大変だ。

(石川) 向うは親切にやつている。いくらか感情的には親切に
した方がよい

——資料朗読——

(石川) 聞かれる前に答えたものも幾つかある。

(藤岡) 口答の話の材料であるなら聞き流しておいた
らよい。

(佐々木) 月曜日の会議はこの項目の一つ一つについ
て話をするのか、散々利用して 答えないのは失礼だ。

(有沢) 一応やつておいたらよい。

(藤岡) 委員会としては軽々しく答えられない

(荒木) ここで方針を決めていたぐいて 局で項目を
拾ったら。-----

——正力委員長 出席——

(佐々木) 外務省と相談しよう。

(荒木) この次の委員会には局に合わないのので、それ
までに局で処理する。-----

以上を局で検討、回答できるものは作成の上渡すこと
に諒承。

(9) アイソトープセンターの中間報告について

佐々木局長より、従来の経過、構想、経過措置等につ
いて報告。次いで 鈴木アイソトープ課長より 小委

員会では構想については、異議ないが、当初サービ
シ的色彩が多かったのを、高エネルギー利用の研究に重
点を置くよう改められた旨報告。次いで「アイソト
プセンターの計画の概要(案)」(資料2)を朗読し
た。

(佐々木) 学術会議で物性研究所を依頼といっている。
これとの関係がある。又各国パテントの問題とひっかか
る。来年になると何百出るかわからない。

後手をとると動けなくなる。

アイソトープは輸入できる。将来専門の炉を作って共
同研究したいというのが狙いだ。この際大きく取上げ
て行ったらよいということ。金も17億かか
る。原研よりも大きいものとなる。機構としても原研
の一つの部としては大きすぎる。附属機関にしたら
よいと思う。

やり方、時期等について議論したい。

(石川) 賛成だ。

(佐々木) 専用の炉を入れた方がよい。

(藤岡) それは考えている。それだけいきなり出されては困る。

(佐々木) 時期、型式は別だが。

(藤岡) 学術会議のは全然別でよいと思う。

特殊法人の中に入れるということはよい。そうしな
いと困る。

(石川) 繊維試験機は一台でなく-----一式だろう。

(藤岡) 高エネルギーの概念が混同している。

(佐々木) 目的意識的に炉を依頼する必要がある。発電、
アイソトープ、医療、それに教育用と

(正力) それは当然だ。

(藤岡) 小さなものを買うといつて笑うが、それは換
算に考えた結果だ。

(正力) 下0x は二つでも三つでも依頼してよいではな
いかと云ったのだ。

(藤岡) 日本でもあれ位のものではきる。これも順
序だ。

(佐々木) これは委員会を依頼して検討している。内容
については吟味する必要あり。研究してくれとい
うことで原子力委員会の態度としたらどうか。

方向はよいか-----できれば、専門の炉

をつけたい。

(藤岡) それはその通り。サイリロトロンよりは炉の方がよい。

(佐々木) できれば 来年度予算にのせたい。

(藤岡) この炉は収入がある。

(鈴木) 産業会議もこれをとりにあげている。建議したいといっている。

(佐々木) この案を投げこんだらよい。向うも関心が強い。もう一つ経過的にどうするか。協会、科研との関係。協会の首脳とメンバーと 科研と意思の疎通ができていない。

(藤岡) それは違う。私も理事だが、皆賛意を表している。科研は別だが――

(石川) 会長、副会長 とその他 疎通してはなかったが、今はよい。

讀賣にしたらよい。あそこをセンターの支部にしたらという考えをもっていると言つたり結構だといつていた。

(藤岡) 科研との関係は藤岡委員に任せたら。

(佐々木) 藤岡委員は 協会は支部とする。茅先生の

は協会は残して委託とするというが――

(藤岡) 協会に輸入したものの頒布――それがなくなつて了う残しておくのは 免倒だ。

(佐々木) ではこの問題は切り離してすゝめよう。

以上で 本案について 小委員会を検討を加えることを諒承

(10) イギリスの動力炉に関する問題について。

先般の正カ発表につき 委員長より次の発言があつた。

(正カ) 参加会に資料を出して 小委員会を作つたらよい。検討して価値があれば 人をイギリスにやる。局々人 京研ノ人。産業会議からも出したいと云つてゐる。経済ベースに乗るなら、協定もよいということの上で――金もできる。

(有沢) 金の方はよい。天然ウランをどう確保するか。

(正カ) 行く人を選んでやる。

(佐々木) イギリスは 天然ウラン―クラハイト、カナダは天然ウラン―重水だ。カナダにも人をやつて研究させる。米国の資料がある。それが全部出そうと具合がよい。

(石川) ヒントンは早くやれという。FOX の云うのを聞いていると 5年までという風に聞こえるが、FOX はまでというのではなく 基本計画をたて、やるということだった。

(有沢) もつと安くよい炉ができないかということだ。

以上本件に関し種々 論議したが、調査のため人を派遣するについて 検討することは諒承された。

(11) 国連科学委員会について

10月 2回の会議が開催されるが、これについて

(鈴木) 代表の選定はどこがやるか。

(佐々木) 旅費をこちらでというのは困る。これは外務省で出してくれと云つてある。外務省には人数を余りふやされては困ると云つていた。原則を先に決めて、その範囲内で 藤岡、茅氏等に相談していたら。

(藤岡) 都築、中泉氏の外に3名はいる。

(佐々木) 人数が 決れば、こちらで受取つてよいだろう。

(鈴木) 外務省と人数を決めて 選ぶのはこちら

らでよいか-----

内 (佐々木) それでよい。

(藤岡) 国連事務局に 各国より/人出してほしいとの話があつた。

日本からも 田島氏が決つた。今月中に出発する。

(佐々木) 1年間の スケジュールを拘つてやらないと困る。

(藤岡) 是非してほしい。

以上で 代表の選定は 外務省と人数を決め、原子力委を中心にきめることを諒承。

(12) 長期基本計画の問題英について

佐々木局長より 問題英に関し 委員会で 日教をかけた検討されたい旨発言あり諒承された。

(藤岡) これについては 学術会議にも諮問してもらえないか。

(佐々木) 私もよいと思う。問題英を資料として送つて-----時期はなるべく早くということだ-----

(佐々木) 委員会に電力分科会をおくかどうか。

重大だから全員でやれという者と、専門家でやると

いう考と二つある。 そのまゝになつていたが、 どう
するか 決めていたゞきたい。

(正カ) 分科会をおく必要はない。

(石川) 皆でやつた方がよい。

(佐々木) その方がよい。

(藤岡) 分科会では 強い人が勝つ。

(有沢) イギリスの動カ炉の向題については 検討す
べき事項を蜀でまとめたらよい。

又調査田を出すのに石川委員を加えたらよい。 調査項
目を検討してほしい。

以上で 4. 25 散会